

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	学力の定着・学習意欲の向上を図る
目標(評価規準)		<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの生徒が主体的に活動し自己肯定感のもてる授業実践 ○「基礎基本の定着が実感出来る授業実践 ○家庭学習の定着、職員と共通理解の具体的取組をすすめる ○教員の工夫した授業実践による授業力の向上を目指す
重点に係る現状 設定理由		<ul style="list-style-type: none"> ○教師力・授業力の向上により、「わかる楽しい授業」が主体的な授業参加・学習意欲の向上につながる ○授業の予習・復習を家庭学習として行うことで、より主体的な授業参加が期待できる

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒が主体的に学ぶための授業づくりの工夫改善をしているという設問に89%が肯定的回答をしている。 ② 基礎基本の定着が出来る授業・学習指導が行われているという設問に89%が肯定的回答をしている。 ③ TTやICTの活用を用いて一人ひとりの生徒に丁寧に指導しているという設問に95%が肯定的回答をしている。 ④ 生徒に家庭学習の大切さを教え取り組むための指導工夫をしているという設問に79%が肯定的回答だった。
各アンケート等の結果	<p>上記設問</p> <ul style="list-style-type: none"> ①の設問について、生徒の96%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は55%であった。 ②の設問について、生徒の98%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は60%であった。 ③の設問について、生徒の93%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は46%であった。 ④の設問について、生徒の90%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は52%であった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ○各設問について、教職員と生徒については肯定的回答が多いものの、保護者の肯定的回答は、教職員・生徒と比較すると、やや低い結果になった。 * 各設問で教職員・生徒の回答と保護者の回答に大きな隔たりがあった。多くの設問に対して「わからない」という回答が10～40%あったこともふまえ、情報発信や学校状況の丁寧な伝達が必要である。 * 家庭学習については、昨年度に比べて教職員の肯定的回答が24%ほど向上している。 今後もタブレットを利用した家庭学習をさらに推進する。また情報提供を丁寧に進めていく必要がある。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT活用を進めてもらいたい一方で、世界的には教育分野でのICT活用に制限を設ける動きも出ている。場面をバランスを考慮して効果的に活用することが必要。 ○教員・生徒の評価と保護者の評価に開きがある。保護者の「わからない」を減らすよう、学校の様子を周知していく取組が必要。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器の活用場面を整理・検討し、効果的に活用できるよう取り組む。 ○ 保護者へ生徒の学習状況が確実に伝わるための情報発信の工夫をすすめる。 ○ 引き続き、家庭学習の定着のために具体的な取組を行っていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	「生きる力」「豊かな心」を育成する指導の充実
目標(評価規準)		<ul style="list-style-type: none"> ○生きる力・豊かな心を育むことでより主体的な生活態度をもたせる ○生徒一人ひとりに居場所があり、仲間と協調して生活ができる ○問題の未然防止、早期発見・早期解決を図り、自分が大切にされていることを実感できる学校づくりをすすめる
重点に係る現状 設定理由		<ul style="list-style-type: none"> ○学習環境だけでなく、行事や部活動でも充実した取組ができるような環境を整える ○いじめなど、嫌な思いをする生徒がでないよう、適応サポート委員会などを機能させ具体的な取組をすすめ、安心して生活できる学校環境を整える

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ① 「総合的な学習の時間」「道徳」などの教育活動を通して「思いやりの心」「他人を尊重する心」が育っているという設問には95%が肯定的回答をしている。 ② 挨拶や礼儀など基本的な生活習慣が身につく指導をしているという設問には73%が肯定的回答をしている。 ③ 生徒を理解し生徒との信頼関係を築けているという設問には、89%が肯定的回答をしている。 ④ 問題行動やいじめ、欠席の多い生徒への対応など、早期発見・早期対応解決につとめているという設問には94%が肯定的回答をしている。
各アンケート等の結果	<p>上記設問</p> <ul style="list-style-type: none"> ①の設問について、生徒の96%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は71%であった。 ②の設問について、生徒の96%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は74%であった。 ③の設問について、生徒の89%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は74%であった。 ④の設問について、生徒の93%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は53%にとどまった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○「生きる力」「豊かな心」の育成については、道徳授業や生徒会の取り組みにおいて積極的な取組を行った。生徒の肯定的回答が昨年よりやや高くなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 生徒との関係づくりは、日常的に必要である。働き方を考えながら生徒と接する時間の確保も必要となる。 * 挨拶や礼儀については、生徒の肯定的回答は比較的高いものの、教職員の回答は昨年に比べ、やや低くなっている。今後は指導の意識向上を図る必要がある。 * 学校での取り組みが、地域・保護者に伝わるように情報提供をしていく。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭と学校が連携して、早い段階からSNSの使い方をきちんと教える必要がある。 ○ 初声中の特色でもあるピンクシャツ運動は、今後もぜひ進めてほしい。 ○ 初声地区は地域の力があるので、地域の力を借りつつも、学校も地域に還元できることを進めてみてはどうか。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 礼儀や挨拶をはじめとした基本的な生活習慣が身につけられるよう指導を行っていく。 ○ いじめのない学校、不登校を出さない学校を目指して、安心安全な学校づくりを進める。 ○ SNSの使い方等については、引き続き学校でも啓発活動を行っていく。 ○ 生徒会を中心とした他学年交流グループを活用した取組を継続する。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	家庭・地域との連携推進と発展をはかる
目標(評価規準)		<ul style="list-style-type: none"> ○PTA・学校評議員会・青少年育成団体などを通して家庭・地域との連携をすすめる ○学校教育の現状を理解してもらうため、市民センターに学校だよりの掲示を継続して行い情報発信につとめる ○小学校とも連携し相互に授業参観・研修会などを行い一小一中の良さを生かした教育をすすめる
重点に係る現状 設定理由		<ul style="list-style-type: none"> ○開かれた学校づくり推進のため、地域・保護者の方の来校機会を増やし、学校の現状を理解してもらい、また、職員・生徒を地域行事に積極的に派遣する ○小学校との連携を充実させ小中9年間で生徒を育てていく

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者会・PTA活動・体育祭などを設け積極的に学校公開に取り組んでいるという設問については、100%が肯定的回答をしている。 ②登下校時の挨拶や地域行事を通して地域への感謝の気持ちを持たせるという設問については、53%が肯定的回答であった。 ③学校からのお知らせ・配布物から学校の様子が伝わっているという設問については、89%が肯定的回答であった。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ①学校は積極的に学校公開に取り組んでいるという設問には、保護者の87%が肯定的回答であった。 ②登下校時や保護者・地域の方や来校者への挨拶についての設問には、生徒の90%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は64%であった。 ③学校からのお知らせ配布物から学校の様子が伝わるという設問では、生徒の80%が肯定的回答をし、保護者の肯定的回答は79%であった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○学校公開などの取り組みについては、積極的に行っており、肯定的回答も高かった。</p> <p>○登下校時挨拶や地域への感謝の気持ち、という設問については、生徒の肯定的回答はそれほど変わらなかった。</p> <p>中学生の地域行事への参加も減ってきている事も要因の一つと考えられるが、地域で生活する一人として、挨拶などは当たり前大切にさせたい。</p> <p>*コミュニティ・スクールの発足を受けて、「地域の学校」として教育活動への理解と協力をいただくため、小学校との連携も含め工夫した取組を強化し進めていく。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○小学生を交えての活動は、一小一中の強みなので、とても良い取組だと思う。 ○保護者・地域と関わりをもつ取組が進められていると思うが、卒業生などの活躍を地域に広げられるような取組があってもよい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校、地域とも更に連携を強化し、地域の学校として開かれた学校づくりを進めていく。 ○コミュニティ・スクールがスタートするので、より一層地域との連携を深め、地域とともに学校運営を盛り上げられるようにする。